

出エジ3 出エジプト記3章1節～10節

「モーセの召し」

イントロ:

1. 文脈の確認

- (1) イスラエルの民は、エジプトで約400年間奴隷となっている。
 - ①過酷な労働
 - ②助産婦を使った男児の抹殺
 - ③全国民を動員した反ユダヤ主義政策
- (2) 解放者モーセの登場
 - ①最初の40年はエジプトの王宮で王女の息子として過ごした。
 - ②次の40年はミデヤンの荒野で羊飼いとして過ごした。
 - ③そして、80歳になった時に神からの召命を受けた。

2. メッセージのアウトライン

- (1) 栄光の神
- (2) 個人と係わる神
- (3) 聖なる神
- (4) 契約を結ぶ神

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 神の再発見
- (2) 召命の認識

このメッセージは、神を再発見し、召命を認識するためのものである。

I. 栄光の神(3:1～3)

1. 羊飼いのモーセ

- (1) しゅうとイテロの羊
 - ①レウエル(神の友という意味)という名で出ていた(2:18)。
 - ②イテロはタイトルであり、レウエルは固有名詞である。
- (2) 神の山ホレブ
 - ①ホレブは山脈である。

- ②シナイ山はその山脈の中の一つの山である。
- ③そこには豊かな緑があったのであろう。
- ④「神の山」というのは、モーセが後から振り返って書いている言葉である。
 - *燃える柴を見た場所
 - *モーセ契約(シナイ契約)が締結された場所

2. 燃える柴

- (1)「【主】の使い」
 - ①第二位格の神(受肉前のメシア)
 - ②同じ方が「【主】(ヤハウエ)」と呼ばれている(4節)。
 - ③さらに、「神(エロヒム)」と呼ばれている(4節)。
- (2)柴の中の火の炎
 - ①背の低い木(柴)は、羊ややぎの餌になった。
 - ②乾燥した砂漠地帯では、柴が燃えることは珍しくはない。
 - ③この場合は、柴が燃え尽きないので珍しかった。
 - ④エジプトで奴隷になっているイスラエルの民を象徴している。
- (3)シャカイナグローリーの現れ
 - ①神の栄光が、雲、煙、光、火、などの目に見える現象となって現われたもの
 - ②神の臨在がそこにある。

3. モーセの反応

- (1)好奇心は衰えていない。
- (2)「大いなる光景」
 - ①「大きな見もの」(口語訳)
 - ②「不思議な光景」(新共同訳)
 - ③ヘブル語「ガドル」
 - *神ご自身を指すこともある。

5. シャカイナグローリーと異邦人クリスチャン

- (1)シャカイナグローリーは「盲点」である。
- (2)神の臨在を歓迎しよう。

II. 個人と係わる神(3:4)

1. ご覧になる神(第二位格の神)

- (1) モーセの人生を見ておられた。
- (2) モーセの性格を知っておられた。

2. 名前を呼ぶ神

- (1) シャカイナグローリーの中から
- (2) 「モーセ、モーセ」。重要な使命に召される場合によく起こる。
 - ① アブラハム (創 22 : 1)
 - ② ヤコブ (創 46 : 2)
 - ③ サムエル (Iサム 3 : 10)
 - ④ パウロ (使 9 : 4)

3. モーセは「はい、ここにおります」と答えた。

4. 新約聖書の例

- (1) ヨハ 10 : 3
- (2) ルカ 19 : 5

Ⅲ. 聖なる神 (3 : 5)

1. あなたの足の靴 (サンダル) を脱げ。

- (1) モーセが歩いて来た地は汚れた地である。
- (2) シャカイナグローリーが輝く地は聖なる地である。

2. 「聖なる地」 (アドウマツト・コデッシュ)

- (1) 「コデッシュ」の本来の意味は、区別されているという概念である。
- (2) セム系の言語には同じルート (語幹) の言葉が出て来る。
 - ① 偶像の神と人間とを区別するための言葉である。
 - ② 偶像の神は人間と同じように善も悪も行うが、その規模が大きい。
- (3) 聖書の神に関連してこの言葉が用いられる場合
 - ① 創造主と被造物を区分する言葉
 - ② 道徳的完全性を示す言葉
- (4) 「コデッシュ」の使用頻度
 - ① 旧約聖書全体で 470 回
 - ② 創世記は 0 回
 - ③ 出エジプト記は 70 回

④レビ記は92回

⑤民数記57回

3. 信者への命令

(1) レビ11:45

「わたしは、あなたがたの神となるために、あなたがたをエジプトの地から導き出した【主】であるから。あなたがたは聖なる者となりなさい。わたしが聖であるから」

(2) Iペテ1:13~16

IV. 契約を結ぶ神(3:6~10)

1. 「アブラハム、イサク、ヤコブの神」

(1) 契約の神の御名である。

(2) 神はモーセの先祖たちと交わした契約に忠実なお方である。

(3) 死後の命を保証する御名である。

①サドカイ人との論争におけるイエスの言葉(マタ22:32)

2. 契約の神は行動する神である。

(1) 3つの動詞

①見た。

②聞いた。

③知っている。

(2) エジプトの手から救い出す。

(3) カナンの地に上らせる。

①広い良い地

②乳と蜜の流れる地

③「カナン人、ヘテ人、エモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人のいる所」

④カナンの地は世界のハイウェイである。

⑤そこをイスラエルの民が所有するのは、人間的には不可能な業である。

⑥400年前の約束の成就である。

3. 契約の神は人間を用いる神である。

(1) モーセに対する派遣のことば

(2) 40歳のモーセと80歳のモーセは違う。

①自分が無力であることを知った。

②それゆえ、神はモーセを用いることができた。

結論：このメッセージは、神を再発見し、召命を認識するためのものである。

1. 神の再発見

(1) 4つの視点から神について学んだ。

①栄光の神

②個人と係わる神

③聖なる神

④契約の神

(2) 自分探しの旅は、神という「鏡」に自分を映すまでは完結しない。

①モーセは自分がどういう人間であるかを発見して行く。

(例話) 鶏鳴教会の石段でころんだ婦人への夫の言葉

2. 召命の認識

(1) 転職の勧めではない。

(2) 人生の方向転換の勧めである。

①神とともに大いなる夢を描こうではないかという誘いである。

(3) 神は人を用いる。

(例話) 聖地旅行で自分がメッセージを語らない時

(例話) 時代は終末に近づいている。

ハナさんとの会話（日本は反イスラエルになっているか）

(4) リバイバルに備えよう。